



はぁっ…

♡…SS

んん……っ

あっ……♡

ああんっ♡

ビクッ

ビクッ

ククッ

ククッ

ククッ

ビクッ

彼女の名前は美咲
孤独な愉しみに耽る少女
オナニーを覚えたのは
最近のことだ

この間親しい女友達と
オナニーの話をした時
クラスの男の子や男性アイドルを
思いながら自慰をするときいた

イキそう…♡

…さん……っ

美咲が性器をいじりながら
思っているのは同世代の
少女たちとは少し違う



お母さん…♡

そつ、彼女が思いを
寄せる人とは
自身の母親なのだ

あたしのアソコ、
お母さんの指でいじって…♡

願望が思わず
口から出るが
本人は気づいていない

はあっ…

自分の欲情の対象が
男性でなく女性で
そのうえ母親だったのは
とまどいがあった



おああ、すごい…♡
こんなに濡れちゃった♡

両手で丁寧にいじると
こんなに気持ちいいんだ…♡

今度からこうしよ…

…うん

しかし同性を愛する
背徳感よりも
少女の若い好奇心と
性欲が遥かに勝っていた



身体から湧き上がる欲望に
もっと身を任せ知りたい
そんな少女の健気な思いが
自慰を夢中にさせる

んんっ…

ああっ…

気持ちよくなってきた…

くっ…



あんっ…
お母さん…
あぁっ…

内側に溜まっていた
蜜液が溢れ出し、
お尻を伝って
シーツを濡らした

うっ…

この指がお母さんのだったら
いいのにな…

自分のおっぱいを吸う女友達と
か細い指で性器を撫で回す母を
交互に、妄想し、
身体は熱くなり、下腹部が疼く



時折、同級生の女友達と
身体をくすぐったり、
ほっぺにキスするのを思い出し
妄想に変化をつける

んんっ…

どうしよう…あたし
本当にこのままでいいの？

内荒れ狂う本能と
親しい友人や母を
性欲の捌け口に使っ
罪悪感がせめぎ合っ



最後の仕上げに奥の一番疼く
ところに指を入れようとするが
処女膜が邪魔で入らない
そこを触れば気持ちいいのに

ああ…んんっ…
はぁっ…

やっぱりお母さんに
触ってほしい…
女の子がいちばん
気持ちよくなれるところ…

先ほど溢れ出た愛液の
甘い香りと汗の酸っぱい
匂いが混ざり合っ
濃厚な匂いが部屋を満たす



愛する女性たちと
もっと深く触れ合いたい…
身体の深いところで
最愛の母を感じたい…

あ…んあつ…
はあつ…

あ…はあつ…

あんつ…♡
ああ…♡
ああつ…♡

□数は少なくなり、
微かに漏れる吐息と
性を激しくいじる水音が、
部屋に静かに響く





あ…いくっ…
はあっ…

イキそう…はあっ…

あんっ…♡
いい…♡
ああっ…♡

あ…んあっ…
いくっ…

いっ…♡
ああ…♡
いっよっ…♡

乳首は硬くそそり勃起
クリトリスは充血し
興奮し切った少女の体は
絶頂に備え息を吞む



あああ♡

あっ…♡
あああああっ…♡

イクっ…♡

あっあ…っ♡

ああ…っ!

セクッ♡

セク♡

喘ぎ声を漏らしながら
美咲は絶頂に達し
甘美な感覚にビクビクと
柔らかい身体を震わせた

はあっ…

ふうっ…

ああ……♡

私、もっと欲しいな…

私の指だけじゃ
本当に気持ちよくなれない……
そんな思いをよぎらせながら
意識が遠のいていく

スウスウと寝息を立て始める
つけっぱなしの照明が
内股の銀色に光る蜜を
照らしている



あぁっ…♡

あんっ♡

ん…♡

ん…っ

はぁっ…

んっ♡
んっ♡
んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

壁一枚隔てた空間で
自慰に耽るこの女性は
美咲の母親・綾華だ

ふっわ…♡

血は争えないのか
服を胸まであげて
下は脱ぎかけ、
娘と同じ姿で性器をいじる

美咲……っ

綾華がオナニーしながら
思い浮かべているのは
隣の部屋で自慰する娘だ



娘がオナニーを覚えた
知ったのは半年ほど前、
自室で現場を目撃した時だ
あん…♡

初めは驚いたが
自分も娘の年頃には
隠れて自慰していたことを
思い出して黙ってた

気持ちいい…♡

あぁっ…

こっ…

はぁっ…

むしろ可愛い娘の自慰行為の
美しさに感動し
バシないように観察するのが
日課になっていた



美咲ちゃんさっきあたしの
名前を呼びながら
オナニーしてたな…

ああ…

やっぱりあたしとのセックスを
想像しながら
オナニーしてるんだわ…

ごっ…

娘が自分のことを
思いながら致していることを
薄々勘づいてはいたが
知らないふりをしていた

美咲ちゃん…♡



だが先程覗き見した時、
娘は自分のことを
性愛の対象としてみてる
と確信した

こんなみつともない
あたしの姿見せたら
どんな顔するかな…

あっ…

見せてみたいけど
やっぱり軽蔑されて
嫌いになっちゃうかな…

身愛おしい娘が自分を
女としてみてる嬉しさと
母としての責任の狭間で
揺れ動く

んっ…



美咲の母、綾華はれっきとした
レズビアンだ。
学生の頃から同級生、年下、
社会人などの女性と付き合い

ああんっ…
美咲…
ああああっ…

んんん…

気持ちよくなってきた…♡

レズ風俗やマッチングアプリ
様々な女性との関係性を求め
欲望の赴くままに
同性愛者の経験を積んだ

はあっ…

大学時代には付き合い合っていた
女性と一組のカップルで
四人でレズの乱交生活に耽った
日々もあった



理想を追い求める一方
女性同士できちんと信用を得て
生活をしていくのは厳しいと
感じるようになっていた

んんんっ…

気持ちいい…♡

今の旦那と結婚したのは
社会的な地位のためだ
だが同時に傷ついた心の隙間を
埋めてくれたことも理由だ

ああんっ…

ああい…♡



夫はエリート社社マンで
高い収入で悪い人物ではない
女性同士の関係に傷心していた
私を癒してくれた

あたしやっぱり
美咲とえっちしたい…
女同士で気持ちよくなりたい…

決して悪い選択ではなかったし
幸せな結婚生活を送り
気がついたら娘の美咲も
生まれていた

あ…
んんっ…
はあぁっ…

自分がレズビアンであることも
忘れてしまっていた
娘の美しくなった肢体に
気づくまでは

ある日一緒に風呂に入った時
娘の美しい容姿に魅了された。

久しぶりに
一緒に入るね〜

シャンプー変えたから
髪質少し変わったんだよ

まだ成長途中で華奢な体つきは
絹糸のようになややかで
繊細で優美だった

娘の肌は真珠のように白く
透明感がありシルクのように滑らかだ
無垢な美しさを保ち健康的な
輝きを放っていた

あたしのおっぱい前より
大きくなったんだよねー

早くお母さんくらいの
大きさにになりたいなー

顔立ちも幼さを残しながら非常に整っていた。
大きな瞳の中には純粹な
好奇心と無垢な心が映し出されていた

彼女の腕は細くながく、
指先まで優雅に伸びている
爪は小さく整っており
ピンク色の優しい色をしている

友達に聞いたらもう
生えてるって

お母さんみたいにびっしり
生えてきたら
どんな感じなのかな…

彼女の脚は、長くまっすぐに
伸び、その華奢な
足首が全体のバランスを
見事に整えていた。

娘の裸を見てかつての記憶
が鮮明に甦り胸の中で欲情が
炎のように燃え上がった。

早くお母さんみたいなの
綺麗なカラダになりたいなあ

ごめんねさっきから
お母さんの裸、
ジロジロ見て…

綾華は秘めていた愛と欲望に
気づき同時にどう扱うべきか
わからない混乱と恐れが
押し寄せた

娘の美しさは彼女が注いだ
全ての愛と時間の結晶であり
母親としての誇りだった。

なんかさっきからあたしの
おっぱいばっかり見てない？

なんだかえっち…

娘の未来が、さらに輝かしい
ものであることを願うゆえに
心の中は穏やかではなかった

あ：美咲：
あんっ：
はあぁっ：

娘の美しい体を
しっかりと思い浮かべながら
性器をいじる手を早め、
絶頂に向かっていく綾華

次第に理性は欲望に覆い隠され
身体が絶頂を求め
いてもたってもいられない





あん…あつ…
らんっ…

イキそ…あぁっ…

あんっ…♡
あぁ…♡
あんっ…♡

あぁっ…♡
こご…♡
ごごん…♡

はぁっ…らんっ…
あぁっ…

イクっ…♡

あん…っ！

ああ…っ♡

あんっ…♡
あああああっ…♡

ああああ♡

背徳感と快感が織り混ざった
乱暴な快楽が荒れ狂う
愛液がドバツと噴き出て
内腿とシートを濡らす



ああ……♡

はぁっ……

ふうっ……

美咲……

娘をオカズにした罪悪感と
自慰行為の心地よい疲労感が
柔らかい身体を眠りに誘う

娘をオカズにした罪深い
変態行為をしたことで
甘い満足感が身体に染みていく
気持ちよさそうな寝息を立て始めた。



続きは本編をお楽しみください